

くすりのしおり

内服剤

2023年10月改訂

薬には効果（ベネフィット）だけでなく副作用（リスク）があります。副作用をなるべく抑え、効果を最大限に引き出すことが大切です。そのために、この薬を使用される患者さんの理解と協力が必要です。

製品名：セロクエル 100mg 錠

主成分：クエチアピンフマル酸塩(Quetiapine fumarate)

剤形：うすい黄色の錠剤、直径約 8.5mm、厚さ約 4.5mm

シート記載など：社マーク、セロクエル 100mg、100SEROQUEL、100mg セロクエル、アステラス製薬、クエチアピン (Quetiapine)、SEROQUEL100



この薬の作用と効果について

脳内の各種受容体（ドパミン、セロトニン）に作用し、強い不安感や緊張感、意欲の低下などの症状を改善します。

通常、統合失調症の治療に用いられます。

次のような方は注意が必要な場合があります。必ず担当の医師や薬剤師に伝えてください。

- ・以前に薬や食べ物で、かゆみ、発疹などのアレルギー症状が出たことがある。昏睡状態にある。糖尿病またはその既往歴がある。心・血管疾患、脳血管障害、低血圧またはそれらの疑いがある。てんかんなどの痙攣性疾患またはこれらの既往歴がある。不整脈またはその既往歴がある。先天性QT延長症候群がある。自殺企図の既往および自殺念慮がある。糖尿病の家族歴、高血糖あるいは肥満などの糖尿病の危険因子がある。不動状態、長期臥床、肥満、脱水状態などの危険因子がある。肝機能障害がある。
- ・妊娠または授乳中
- ・他に薬などを使っている（お互いに作用を強めたり、弱めたりする可能性もありますので、他に使用中の一般用医薬品や食品も含めて注意してください）。

用法・用量（この薬の使い方）

- ・あなたの用法・用量は（：医療担当者記入）
- ・通常、成人は1回クエチアピンとして25mgを1日2または3回服用することから開始し、状態に応じて徐々に増量され、1日150～600mgを2または3回に分けて服用します。年齢・症状により適宜増減されますが、1日750mgを超えることはありません。本剤は1錠中にクエチアピンとして100mgを含有する製剤で、1回100mg以上を服用する場合に用いてください。必ず指示された服用方法に従ってください。
- ・飲み忘れた場合は、気がついた時、できるだけ早く1回分を飲んでください。ただし、次の通常飲む時間が近い場合は1回とばして、次の通常の服用時間に1回分を飲んでください。絶対に2回分を一度に飲むではいけません。
- ・誤って多く飲んだ場合は医師または薬剤師に相談してください。
- ・医師の指示なしに、飲むのを止めないでください。

生活上の注意

- ・眠気、注意力・集中力・反射運動能力などの低下があらわれることがありますので、自動車の運転などの危険を伴う機械の操作はしないでください。
- ・体重が増えることがありますので、食事・運動に気をつけて太り過ぎないように注意してください。
- ・糖尿病性ケトアシドーシス、糖尿病性昏睡などの重篤な状態になり死亡にいたる可能性や、低血糖があらわれることがありますので、この薬の服用中は血糖値の測定が行われることがあります。また、患者さんや家族の方は、このような副作用があらわれることがあることを十分に理解できるまで説明を受け、副作用の症状があらわれた場合には、薬を飲むのをやめて、ただちに受診してください。
- ・無顆粒球症、白血球減少があらわれることがありますので、この薬の服用中は血液検査が行われることがあります。
- ・飲酒により薬の作用が強くあらわれることがありますので、服用中の飲酒はひかえてください。

この薬を使ったあと気をつけていただくこと（副作用）

主な副作用として、不眠、易刺激性、傾眠、不安、頭痛、めまい、アカシジア（じっとしていることができない）、手足の震え、構音障害（はっきり話せない）、頻脈、便秘、食欲減退、倦怠感、無力症などが報告されています。このような症状に気づいたら、担当の医師または薬剤師に相談してください。

まれに下記のような症状があらわれ、[]内に示した副作用の初期症状である可能性があります。

このような場合には、使用をやめて、すぐに医師の診療を受けてください。

- ・口渇、多飲・多尿、頻尿 [高血糖、糖尿病性ケトアシドーシス、糖尿病性昏睡]
- ・脱力感、冷汗、手足の震え [低血糖]
- ・筋肉のこわばり、嚥下（飲み下し）困難、発汗 [悪性症候群]
- ・筋肉痛、脱力感、赤褐色尿 [横紋筋融解症]
- ・けいれん [痙攣]

以上の副作用はすべてを記載したものではありません。上記以外でも気になる症状が出た場合は、医師または薬剤師に相談してください。

保管方法 その他

- ・乳幼児、小児の手の届かないところで、直射日光、湿気を避けて室温（1～30℃）で保管してください。
- ・薬が残った場合、保管しないで廃棄してください。廃棄方法がわからない場合は受け取った薬局や医療機関に相談してください。他の人に渡さないでください。

医療担当者記入欄

年 月 日

より詳細な情報を望まれる場合は、担当の医師または薬剤師におたずねください。また、「患者向医薬品ガイド」、医療関係者向けの「添付文書情報」が医薬品医療機器総合機構のホームページに掲載されています。